平成27年度第2回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時　平成27年12月16日（水）　10：00～11：30
○会場　宇都宮市冒険活動センター　会議室
○出席者氏名

・塚原　和哉委員　（市小学校長会）＜会長＞
・村上　敬吾委員　（県キャンプ協会）
・金田　俊男委員　（県林業センター）
・入江　尚見委員　（公募）
・田辺　陽子委員　（市ＰＴＡ連合会）
・沼尾　順市委員　（篠井地区ゆたかなまちづくり協議会）
・坂内　剛至委員　（ネイチャープラネット）
・芥川　一男委員　（公募）

（事務局）狐塚 章一所長，山口 博副所長，有馬 知英課長補佐，佐藤 洋美指導主事，矢野 学指導主事

○欠席者氏名

丸山　剛史委員（宇都宮大学）＜副会長＞
湯沢　一郎委員（市中学校長会）
五十嵐市郎委員（市子ども会連合会）
森山　公子委員（市ﾎﾞｰｲｽｶｳﾄ･ｶﾞｰﾙｽｶｳﾄ連絡協議会）
相田美智子委員（市レクリエーション協会）

○公開　（傍聴者の数　0人）

１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　題
（１）　報告事項
①　平成27年度事業報告について（ア学校受入事業，イ主催事業，ウ一般受け入れ事業）

事務局　：　（資料にそって説明）
会長　　：　事業報告があったが，ご意見，ご質問はあるか。
入江委員：　説明にあったパーゴラとは何か。
事務局　：　ロッジデッキの屋根になっている部分で，そこが雪の重みや雨にさらされ，柱部分が劣化して危険な状態であった。雨をしのげる部分であったので，残したかったが，安全面を考慮して撤去した。また，不安定な柱部分には補強を加えた。
会長　　：　常設テントのデッキの塗装に関しても職員がやっているのか。
事務局　：　デッキの寿命を延ばすために，防腐剤の入ったものを塗っている。テントデッキに関しては，1張分を7～8名で約2時間かけて塗装している。
会長　　：　結構，地面との境が早く腐食していく。
村上委員：　一般公募事業のちびっこキャンプについて，2年目になるが応募者が非常に多い。何とか希望者のニーズに応えられる形はとれないものか。よい事業であるので，なんとか発展させてもらいたい。
事務局　：　できるだけ参加してもらいたいという思いはあるが，現状としては難しい。回数を増やすことも考えられるが，学校受け入れの現状をみると厳しい状況である。企画運営に工夫を凝らし，準備にも当たっているので時間的に難しい。1回の人数を増やすことも考えられるが，２年間実施してきて，子どもたちの発達段階を考えると，安全に事業を行うには現状が適正人数と思われる。ただ，できるだけたくさんの子どもたちに自然体験をして欲しいという思いがあるので，悩ましいところである。今後もより多くの子どもたちに自然体験活動の場を提供できるよう考えていきたい。
会長　　：　よろしいか。他にないか。
芥川委員：　来年度の学校計画についてだが，学校の期日は学校ごと固定されているのか。それとも季節をローテーションしているのか。春先来た学校は，毎回春先と決まっているのか。
事務局　：　学校利用に関して，市内には93校の小中学校がある。それをABブロックに分けて，さらにそのブロック内を4つに分けてローテーションをしている。いろいろな時期に実施できるように配慮しているが，中学校はテントを利用することから4月から11月中旬までに全て実施できるようにしている。そのため，小学校が入るところが限られて，季節のよい春先や夏には，数年に一度しかまわってこない。小学校から，3年連続で冬の時期に実施になっているとご意見をいただいたことがある。その際には，ローテーションを行っていること等，丁寧に説明して理解していただいている。

芥川委員：　生徒側に立ったとき，寒いとき暑いときと同じ思い出を同じ学校で共有していくこともよいとも考える。また，季節をかえたほうがよいという考えもある。いろいろなことを考慮しながら，決めていることは分かった。学校側は，どう考えているのか。私は，子どものことを考えると学校で時期を固定し，毎年同時期に行くことも異学年でも共通の思い出となってよいのではなかと考える。事務局側が気を使って決めていることは分かった。

会長　：　学校利用調整委員会というものがあって，日程の計画をねったものを校長先生方に了承をいただいて行っている。学校側の意見を聞きながら，すすめているものである。

芥川委員：　学校の了解を得て行っていることが分かった。

沼尾委員：　今年は，地元としても今までにない大雨に見舞われ，大きな被害がでた。通学路の橋も今なお流されたまま架かっていない状況が続いている。地元として，行政にお願いしているところである。ここの事業で天候に左右されたことや今後の対応について聞かせていただきたい。

事務局　：　こちらでも，9 月の大雨の際には被害がでた。冒険広場の吊り橋付近では，土砂崩れが起き，活動にも支障がでた。その付近で行う活動のアドベンチャーゲームを予定していた学校では，規模を縮小して行うなどの対応をとった。イニシアティブゲームを行う場所も穴を埋めたり，排水の溝の土を取り除いたりの対応を行った。園外の活動においては，登山に関して大きく影響がでた。一つの山から五つの山まで，コースを設定しているが，そのうち五つ目の山である高舘山への登山コースの道路が陥没して通行が困難なところがあり，五山を希望した学校には，四山へ変更して実施していただいた。高舘山のコースに関しては，倒木も多く，観光交流課へも働きかけて，来年度実施できるように進めている。また，本山からの下山ルートにも大きな木が倒れているが，安全を確認しながら対応しているところである。これからも登山については，対応が必要である。

沼尾委員：　地元ハイキングクラブでも，2 回ほど山に入り，木を伐採したと報告を受けている。

会長　：　他にないか。よろしければ，協議事項に関して事務局より説明をお願いする。

（2）協議事項

① 平成 28 年度事業計画について（ア　学校受入事業，イ　主催事業，ウ一般受入事業）

事務局　：　（資料にそって説明）

会長　：　事業計画について，まず，新規事業を除いた部分でご意見をいただきたい。特に 9 ページの二重丸のところあたりを中心に，その他でもよいのでご意見をお願いする。

入江委員：　本日来ている小学校の保護者に知り合いがいる。その保護者の方が聞いてみたいことあるといっていた。最近は ADHD の子も多くなってきている。そういった子どもに対して事前に何か対策はしているのか。声かけをどうしているのか。また，運動が苦手な子が，ウォールなど行うときに気をつけていることや言葉がけ等について知りたいといっていた。

事務局　：　まず，指導者研修会の中で，配慮が必要なお子さんについて情報をいただいている。また，その後も学校からお話をいただいた時点で対応について相談をしている。希望があれば，本人と保護者に下見をしてもらい，ここの施設や活動について直接説明することで，少しでも不安や心配を和らげてから実施を迎えられるようにしている。さらに実施に際しては，最終打合せを設け，先生と担当職員とで，配慮する点や対応の仕方などについて共通理解を図ったうえで，活動支援にあたっている。体格についても情報を得て，イニシアティブゲームなどでは，大きい子がいるときには，その子を支えられる職員が担当するようにしている。子どもたちの力だけでやれるよう支援しているが，どうしてもそれが難しいときには，子どもには自分たちだけでやっているように思わせるよう，できるだけわからないような形で手助けをすることもある。最後には成功体験で終わってもらいたいとの配慮で活動に取り組んでいる。また，先生方との相談の中で，本当に厳しい子には，ウォールをせずにその他の種目をあえて行うということもある。

会長　：　その件について，主催事業での対応はいかがか。

事務局　：　同じように対応している。事前に調査用紙を提出してもらい，心配なことを保護者の方にあげてもらっている。その後，電話で連絡を取り，対応などについて相談して，支援にあたっている。こちらでも必要があれば，下見をしていただいている。

会長　：　我が子を行かしてあげたいが躊躇しているケースもあるのではないか。これだけ配慮してくれるのであれば，安心して参加させられるのではないか。

事務局　：　現在では，問い合わせいただいたときに説明をしている。チラシなどにはじめからの情報として表記しているわけではない。

村上委員：　新規事業に関して，ちびっこキャンプの感想を読ましていただいたが，はじめ心配だったが参加させてよかったとの声が多かった。案として出していただいた 3･4 年生対象の

ものは，非常によいと考える。しかし，日帰りとなっているので，いずれは検討していただき，宿泊に発展してもらいたい。是非，3･4 年生対象のものは行ってもらいたいと強く願う。

会長　　：　学校利用に関して，ご意見はあるか。

坂内委員：　これから調査研究に関して，新しい尺度に変えるとあったが，そのメリットは何か。

事務局　：　現在の調査は「生きる力」に関してのもので 5 年間実施した。これまですべての年度で「生きる力の向上に効果あり」との結果が出ており，検証が実証されたと判断した。新しい尺度の作成に関しては，これからすすめていくところではあるが，自己有用感，自己肯定感等を調べられる尺度などが案としてあげられる。東洋大学の平野先生のご指導を受けながら実施していく方向で進めている。

田辺委員：　学校の引率者対象の研修を受けているのは，どのくらいの割合なのか。

事務局　：　研修会では，日程の調整も行っているので，全校 1 人は参加している。主任の先生が中心に参加しているが，まだ一度も利用したことのない先生が参加することもある。可能なら，どちらの方にも来ていただいて計画を立てたり，活動を体験していただくことが一番望ましいがなかなかそうはいかない。学校側へは，午前中の計画を立てるときには主任の先生，午後の実技研修のときには利用したことがない先生というように分けて参加する方法も提案している。現在は，主任の先生が 1 日を通して参加していることが多い。実施までに，はじめての先生方が下見をする場合には案内や説明などの対応をしている。参加の割合は，ほぼ全部の学校が参加している。

入江委員：　今年と昨年に子どもをちびっこキャンプに参加させていただいた。はじめのアイスブレイクは親も見ることができた。その際，若い職員の方が本当に手厚く，愛情をもってやって子どもたちと接しており感心した。なかなかなじめない子に対しても，無理に輪に入らせるのではなく，いろんな人がさりげなく声かけをし，自然に入れていた。そんな姿を親が見たら，これだけ経験豊富なスタッフの中で活動できることがわかり，安心感が増すのではないか。そのような場面を見られる機会が閉講式に見せていただいたスライドショーである。スライドショーは，写真なので映像もあると分かりやすいと考える。支援の様子を映像でホームページに載せると皆が見られ，イメージもわくのではないか。子どもたちもウォール等に不安があるとき，その支援の映像を見ることで不安も和らぐのではないか。映像もよい方法ではないか。

会長　　：　公募型の新規事業以外について，まずはご意見を伺いたい。

芥川委員：　子どものもりフェスティバルについて，冒険活動センターの 20 周年，そして市制 120 周年と連動してとなっているが，特別なことは行うのか。何か違いがあるのか。

事務局　：　市制 120 周年の冠がつくグッズが作成されるようなので，それを配布することができそうである。また，ミヤリーちゃんの活用も推進しているので，登場も可能と思われる。その他，地域連携として，気球の係留飛行体験を考えている。フェスティバルの開催を 10 月 16 日に予定しており，ちょうど稲刈りが終わっている。稲刈りが終わったあとの田は気球を飛ばすには，最適の場所と聞いている。篠井の町のアピールにもつなげられればと考えている。料金的なことや地元の了解も得ないといけないので，実施に向け進めていきたい。

芥川委員：　特別に予算はつかないのか。

事務局　：　特別予算は難しいと思われるので，飛行体験は参加費をいただくことを考えている。

会長　　：　学校で，無料で気球体験できる企画があったのではないか。1 年に 1～2 校程度であったと思う。そのようなことも調べてみてはいかがか。

沼尾委員：　どのくらい費用がかかりそうか。

事務局　：　燃料費のみでやっていただけそうで，1 回の燃料補給で約 3 時間飛ぶことができるようである。3 時間だと 100 名くらい体験できたとして，1 人当たり 500～1,000 円くらいになりそうである。まだ，きちんとした計算ではないのではっきりしないところである。

沼尾委員：　ちょっと高く感じる。

事務局　：　ネットで調べると，金額もまちまちであるが，2,000 円～2,700 円くらいでやっているところもあった。

会長　　：　いろいろご意見をいただいた。他にないか。

芥川委員：　意見として，タイトなスケジュールの中，一生懸命やってもらっている。1 年間行事を考えながらやっていることがわかる。実施が大変でしょうが，頑張ってやっていただきたい。

会長　　：　20 年間が経ち，施設の整備を進めていかなくてはならないのではないか。

村上委員：　予算がない中，これからは高齢者のボランティアの活用もあるのではないか。地域でボランティアを募集し，人材バンクみたいなものをつくってはいけないだろうか。今はボランティアをやりたい人が多く，「こういうことならできる，得意だ」という人がいる。

そのような方々に登録してもらうと集まるのではないか。「今度このような作業があるので，集まってもらえないか」といった具合に得意分野で登録していただくのはどうか。

芥川委員：　OB の方が指導者として登録していると聞いている。同様に冒険活動センターへの協力者の登録をしてもらい，「こういうところを直してもらいたい。こういう仕事をやってもらいたい」と希望を出せば，地域を広げて退職された方など，年に１～２回くらいだったら，小学校，中学校で自分の孫がお世話になっていることを考えると手伝ってくれる人は多いのではないか。予算がなかなかつかない中だろうから，維持管理として協力してもらうことは，有効だと考える。

会長　：　最後になるが，新規事業について事務局より提案があった。エンジョイサタデーを廃止し，新規として公募型のものがあがっていた。いろいろな意見をいただければと思う。その中から２つにしぼっていく方向である。どうぞ，意見をお願いする。

芥川委員：　3･4 年生をターゲットにしていただくことはよいと考える。空白の学年があったところにしぼったところがよい。

会長　：　いろいろなところで，事業を行っている方々がいると思うので，その立場から，事業を行う際にこんなことにメリットがある，また支障があるなど，そのようなことを聞かせていただきたい。

坂内委員：　ここは，指導者の力がある。3･4 年生対象の事業はよい。他は，民間でもやっている。民間は，どうしても利益が絡むので，料金が高くなる。家族で全員分だとかなりの負担となる。その点，ここは安心して参加できる魅力がある。ここに挙げられていないターゲットとしては，シングルマザーやシングルファーザーを対象にしたもので，日帰りでも安い料金で体験していただけるとよいのではないか。このような点は，行政が進めていただけるとありがたい。民間ではできにくいことを行政のメリットを生かしてやっていただきたい。

金田委員：　予算が厳しい中で何をやっていくのか。何を重視してやっていくかが，問題である。公民館等で行っていることも含め，全てのことをここでカバーできればよいと思うが，そうもいかないので，子ども中心のものがよいのではないかと思う。

芥川委員：　門松づくりやクリスマスリースづくりは，学習センターや公民館でもやっているのを目にする。みなさんが言ったようにここならではのものがよいと考える。お金がかかってここでやる意味と地元で行えるものも考慮して決めていけばよいのではないか。

会長　：　「大人の休日」に関しては，ここにある道具を使い，地元の食材を使って，地産地消の観点からもメリットはあるのではないか。ただ対象がグループでなくてはダメなのか。アピールの仕方によるが，地元と冒険の利点を生かすには大人だけでなく，家族に広げてもよいのではないか。

金田委員：　ピザづくりは，よいと思う。「大人」とついているのがよくない。火を使ったり，かまどを使ったりは，よい活動である。ネーミング，対象者は考えていただきたい。ピザづくり自体は賛成である。

坂内委員：　冒険活動センターのメリットというわけでないが，篠井ニュータウンのことを考えるとここでイベントを行うことに意義があると思う。ニュータウンに住みたいと思わせることが可能ではないか。住宅供給公社と共催で行うことで，篠井の魅力を発信できると考える。そのようなことであれば，うちでもやりたい。

田辺委員：　食に関しては，やはり生きる基本となることなので，魅力がある。家では，IH などの普及により，火に慣れていないので，火を使った活動で，燻製づくり，焼き芋などは，よいと感じる。食につながるものだとイベントとしてそそられる。

会長　：　さまざまな意見がでてきたが，他にないか。

芥川委員：　焼き芋はいい。ここで焚き火をして火を囲んだ集いはよい。

会長　：　昔は，各学校で焼き芋はやっていた。今は，さまざまな条件から，やらなくなっている。ここのメリットとして，いかせるのでよいと考える。

村上委員：　ここのところ，災害が多くなってきている。災害になると電気もガスもない不自由な生活となる。そうなると焚き火をし，水を汲んできての生活となり，そこでリードをしているのは，お年寄りである。火を使えるからである。これから事業を進める中で，そういったことを意識してはどうか。災害に備えた基礎知識を与えるといった事業も考えてもらいたい。

会長　：　そろそろ時間もなくなってきた。これからのことも踏まえてご意見をお願いする。

芥川委員：　ここで，小中学生が活動する際，一般の人と交わらせることはできないか。せっかく学校現場を離れているのだから，一般の人たちが見ている中で，どういうふるまいをするか考えることは大切なことである。例えば，一般の方々がキャンプをしている中で，一緒にキャンプをすることでお互いのことが分かるようになることや炊飯場を共有することで公共心を養わせることとかが考えられる。一つの意見として考えてもらいたい。

村上委員：　林業センターの方がいるので伺いたいのだが，山砂や人工芝の話がでていたが，ウッドチップはどうなのか。簡単に手に入るもので，無料での提供が可能なのか。それとも高いものなのか。

金田委員：　無料は難しいのではないか。

沼尾委員：　木の根っこを細かくしたものならば，無料でもらうことができるのではないか。

金田委員：　根っこを使ったものは，ウッドチップとして敷き詰めるのには適さない。丸太を加工することや，端材を再利用のために加工することはある。いずれにしても購入する必要がある。

事務局　：　根っこのものは，利用できなかった経緯がある。

金田委員：　人工芝に関しては，ここの魅力からすると半減してしまうのではないか。人工芝はやめたほうがよいと思う。

事務局　：　ウッドチップに関しては，2 年前に農村整備課の事業の一環としていただいたことがあり，冒険広場のイニシアティブゲームのゾーンに使わせていただいた。霜が降りる時期など，ぬかるみを防ぐためにも大変役立っている。その際は,ダンボール 1 箱 3,000 円ほどと伺った。購入することは難しいので，いただけるところがあれば，ありがたい。人工芝に関しては，先日，屋板運動公園テニスコートから要らなくなったものをいただいた。泥除け用の足ふきマットとして利用を考えいただいたものである。その有効活用として考えたことである。これから足場の状況を見ながら検討していく。ウッドチップに関しては，いただけるところがあれば，是非お願いしたい。

会長　　：　時間となったので，閉会とする。

4　閉　　会